

会議録

会議の名称	令和7年度加古川流域滝野歴史民俗資料館運営委員会
開催日時	令和7年12月17日（水）午前10時から午前11時30分まで
開催場所	加東市滝野公民館 1階 研修室（加東市下滝野1369番地）
出席及び欠席委員の氏名 （出席委員6人）神戸成企、石田れい子、前田昭美、西山修三、山田将人、湖内克利 （欠席委員無し）	
説明のため出席した者の職氏名 無し	
出席した事務局職員の氏名及びその職名 加東市教育委員会 教育振興部生涯学習課（課長）松本裕介（係長）岸本素直（主任）上月克己	
議題、会議結果、会議の経過及び資料名 Ⅰ 協議事項 （1）令和6年度加古川流域滝野歴史民俗資料館の事業報告について ・加古川流域滝野歴史民俗資料館、三草藩武家屋敷旧尾崎家の運営状況 ・加東遺産講座 ・資料館講座／文化財教室 ・文化財出前講座 ・その他 （2）令和7年度加古川流域滝野歴史民俗資料館の事業について ・資料館無料開放事業 ・資料館講座／文化財教室 ・社公民館周辺遺跡の出土遺物展 ・その他 （3）加古川流域滝野歴史民俗資料館の運営について Ⅱ 会議の経過 別紙のとおり	

(別紙)

令和7年度加古川流域滝野歴史民俗資料館運営委員会 会議の経過

発言者	会議の経過／発言内容
事務局	1 開会
事務局	2 挨拶、紹介
事務局	3 協議事項 (1) 令和6年度加古川流域滝野歴史民俗資料館の事業報告について ＜質疑・意見等＞
委員	来館者満足度調査だが、満足した点や不満足の内容がもう少し分かれば展示に反映できると思う。
委員	調査を行うに際し、本音を聞き出すために来館者等への接し方にも工夫が必要だ。
委員	前回の展示替から5年ほど経過しており、次の入替えに向けてのニーズ把握のためにも来館者の声は有用だ。
事務局	市の計画目標の達成度合は数値化したものでも検証することから、数字で把握できる調査をしている。施設の運営面から考えると、来館者の思いや求めるものを掴めるようなやり方も考えたい。それを念頭に置いて日々の来館者対応をしていこうと思う。
委員	学校関係への働きかけは大切だ。特に滝野地域の学校には是非足を運んで貰い、郷土の成り立ちを学んで欲しい。アンケートについても子どもが書いたものの方が的を射ていることが多い。
事務局	教育委員会ではふるさと学習かとう学という副読本を作成し、郷土学習の事業に取り組んでいる。それに絡めることで学校から資料館への来訪に繋がるようにできればと思う。
委員	加古川流域の滝野に絞らず、社や東条の歴史も特別展等で取り上げていくことで市内からの来館が多くなると思う。加東を愛する心を育むことにもなる。学校の指導教員への呼びかけも効果がある。
事務局	令和2年から資料館では市内で出土した埋蔵文化財など展示の幅を広げている。地域交流センターにおいても加東の歴史を常設パネルにて解説することで資料館への来館を誘っており、このことについても学校に周知していきたい。
委員	学校は資料館が市の歴史も紹介しているという認識が薄い。かとう学の延長上にあるような展示展開を図れば学校からの足が資料館に向くと思う。
事務局	学校教育やかとう学との関連性にも留意したい。
委員	文化財の事業説明もあったが、この委員会で審議しているのか。
事務局	文化財保護審議会でも文化財行政について話し合っている。資料館では本市

	の歴史文化を醸成するため、約20年前から加古川流域の歴史民俗のみならず市内の文化財等も含め、対象を広く捉えており、当委員会でも取り上げてきた。
委員	加古川舟運など核となる展示と他の資料とのメリハリをつけると観覧する側も分かり易くなる。又、展示資料と現代のものとの対比説明があるとより魅力が増すと思う。
委員	令和2年のリニューアル以降の来館者数が芳しくない。今後、展示入替をするうえでも需要の把握は重要だ。
事務局	展示再編の際には来館者要望の吸上げに努めるとともに現在の展示の反省点も踏まえて検討していきたい。全面入替だけでなく、部分的な見直しも交えながら時流に沿うものを考えていく。 (2) 令和7年度加古川流域滝野歴史民俗資料館の事業について ＜質疑・意見等なし＞ (3) 加古川流域滝野歴史民俗資料館の運営について ＜質疑・意見等＞
委員	歴史民俗資料館の観覧料制度は廃止にしないのか。
事務局	これまでと同じく、観覧者には一定の負担を求めるという考えに変わりはない。それに加えての話になるが、料金で入館を躊躇されるのは行楽ついでの立寄り客だ。無料化すれば観光客を若干取り込めるが、社会教育施設の性質上、派手な演出は無いので観光的な満足は得難く、館内での滞在時間も短いことから歴史文化への関心に繋がっているようにも見受けられず、社会教育の推進になるのか疑問を持っている。歴史や民俗に関心を持って来館される方の多くは熟視され、入館料も納得されている。市の総合計画では令和5年度から計画目標である指標が来館者数から来館者満足度に変わった。観覧者数の減少は日本全体の人口減少や少子化、学習の多様化など社会構造の変化が背景にあると見ており、今後、観覧者数を増やすことを一番に目指すのは現実にそぐわないとの判断によるものだ。これからは満足度を上げていくことで社会教育を推進する方向に舵を切った。観覧者数を増やすことも大切なことだが、無料化で観光客を取込むことにより増やすことは社会教育施設としては考えておらず、展示内容の向上や関連事業の開催などで理解を深めていただいて満足度を上げていくことがこれからの社会教育にとって重要であるという認識だ。
委員	将来的に加東市歴史資料館に改名しないか。検討いただきたい。
事務局	今、公共施設全般について適正化を進めている。資料館も将来的に違う形で運営することも考えられ、料金面も含めて長期的な課題と捉えている。
委員	観覧料を来館者に委ねるのも一案だ。まずは門戸を広げて入館の数を増やし、納得された分だけ支払ってもらうという方法もある。又、関連図書の紹介など、図書館との往来の流れを作ることによって探求心をくすぐり、興味を持つ人を増やすこともできるのではないか。
事務局	提案される課金方法は制度整備が難しいが、面白い発想だ。

委員	この程度の観覧料の有無で来館者数が大きく変わることはないと思う。
事務局	無料化もよい考えだが、観覧料は貴重な財源になっている。
委員	廃止された公共施設などを展示等に活用してもよいのでは。
事務局	施設面においても時代の転換期を迎えているが、そのような中で今後どう運営していくのかということも皆さまの力添えをいただくことになると思う。
委員	従前から懸念していることだが、資料館や文化財の業務が円滑に行えるような環境整備や人的配置の充実について、あらためてお願いしたい。
委員	尊い歴史文化や施設を守るために市民が動くことも大切なので、委員として支援していきたい。
	＜ほかに質疑・意見等なし＞
	4 閉会
	以 上